

# 学 習 センター

だより

No.45

平成23年(2011)1月15日発行

発行・編集：総合学習センター

公民館報 NO.655

図書館だより NO.382

## 飯山市の歴史



江戸時代も変わらぬ一富士・二鷹・三なすび  
 正受庵に伝わる「初夢画讃」は臨済宗中興の祖、白隠禅師による墨画で、平成10年に市の文化財に指定されました。薄墨の一筆で描かれた富士山の右上に「をふじさん かすみの小袖 ぬがしゃんせ…」と、富士山と女性の名前をかけた当時流行の謡と思われる一節を書き、左には「初夢や一富士二鷹三なすび」の句と鷹の羽根、紺色・白色のなすびが添えられています。

- |       |                           |
|-------|---------------------------|
| 飯山公民館 | 電話：62-3342<br>FAX：62-5940 |
| 秋津公民館 | 電話/FAX：62-2330            |
| 木島公民館 | 電話/FAX：62-0555            |
| 瑞穂公民館 | 電話/FAX：65-2501            |
| 柳原公民館 | 電話/FAX：62-5562            |
| 富倉公民館 | 電話：67-2136<br>FAX：67-2211 |
| 外様公民館 | 電話/FAX：62-1029            |
| 常盤公民館 | 電話/FAX：62-3200            |
| 太田公民館 | 電話/FAX：65-4579            |
| 岡山公民館 | 電話：69-2010<br>FAX：69-1800 |

### 年頭所感

#### 「飯山らしさ」という宝物

謹んで初春のお喜びを申し上げます。昨年、記録的な猛暑、口蹄疫、地検の証拠改ざん、尖閣沖中国漁船衝突、映像流出事件などのほか、所在不明高齢者問題、子どもや高齢者の虐待など悲しい事件も多発した年でした。今年こそ…と今年も祈らずにはいられません。

こうした悲しい出来事の多くは、複雑なそれぞれの事情の陰で、コミュニケーションの希薄化が少なからず影響しているように思います。地域のつながり、隣近所の支え合いが大きな力になることとて必ずあると思うのですが、近年は、個人主義を「プライバシーの保護」が応援し、結果として悲しい結末を招くことも見られます。

昨年9月に策定された「飯山らしい社会教育計画(社会教育振興基本計画)」では、重点事業を「協働による住みよい地域づくり」として、①地域コミュニ

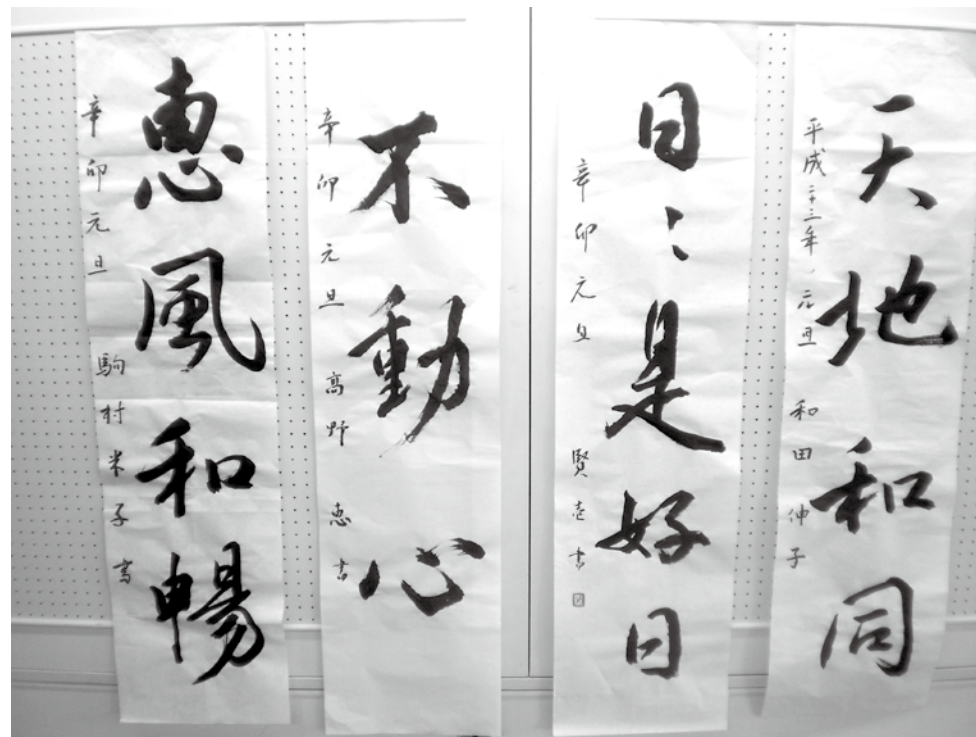
ティを高める。②ふるさと文化を学び継承する。を柱にさまざまな学びを実践につなげ、地域力のアップを目指していこうとしています。地域が、将来にわたって存続していくうえで、コミュニケーションの充実、極めて大切で、ふるさと文化の継承・発展も、その上でのみ花開くものと思います。

3年後には、新幹線が飯山を走りまします。経済再生の絶好の機会ですが、斬新な手法の中にも飯山らしさが貫かれてこそ可能なものと思えます。今年、総合学習センターの各館はもとより、各地区公民館等とも連携して、この「飯山らしさ」に思いを寄せ取り組んでいきたいと思っています。皆様のご指導、ご協力をお願い致します。

2011年が、皆様にとって素晴らしい年になりますよう、ご祈念申し上げます。

総合学習センター所長 清水 侃

## 本年もよろしくお願いたします



総合学習センター 後期講座 書き初め講座受講生作品

### 機織り達人の手作りの良さを次の世代へ

市民学芸員の横顔  
活動紹介  
No.1

ふるさと館市民学芸員 今井喜久江さん(野坂田)

今井さんが初めてふるさと館に来てくださったのは、平成19年でした。ふるさと館に収蔵してある古い機織り機を修復してくださった方が、実際に使える人がいなければ、と今井さんを紹介してくだ

さつたのがきっかけでした。今井さんは、十数年前に「さおり織り」を習い始めてから機織りを始めたといいますが、ふるさと館での最初の作業は、機織り機に糸を張ることからでした。細い糸を箆に

一本一本通していくのは気が遠くなる作業です。この地道な作業のおかげで、ふるさと館の機織り機は長い年月を経てもよみがえりました。

今井さんは、機織りの達人として、ふるさと館で行なわれる機織り体験などで子どもたちを中心に指導して下さっています。子どもたち一人一人に、やさしい語りかけで接し、丁寧に教えています。とても親しみやすく、子どもたちもわずかな体験時間を楽

しそうに過ごしています。体験指導以外にも、定期的に足を運んでくださり、機や糸の調子を見て、ほつれや乱れなどを手直ししてくださっています。

機械化によつて機織りを知らない世代が多くなつていく今日、少しでも多くの人に機織りを知ってもらい、その技術を絶やさずに次の世代につなげていくことが大切なことです。今井さんはその橋渡しをしてくださっています。



△子どもたちに機織りを教える今井さん。

### 美術館情報 常設展のご紹介

現在、美術館では常設展として、長谷川青澄・相原求一郎・宮沢鉄夫・佐藤武造・岩上隆静・滝純一の絵画作品や寺瀬黙山・箕口博の彫刻作品など50数点を展示しています。

この中で、『誕ポイヤウンペ』(長谷川青澄作)という日本画は、アイヌ民族の口承文芸「ユーカラ」に登場する英雄、ポイヤウンペが誕生する場面を描いた作品です。伝説や物語を題材とした長谷川青澄の作品には、一説に金太郎(坂田金時)を育てたとされる足柄山に住む山姥を描いたものもありますが、日常的な人物画とは違う独特の雰囲気を感じられます。『誕ポイヤウンペ』の作品の写真是裏表紙に掲載してあります。

### ふるさと館への寄贈資料

- 次の皆様から資料をご寄贈いただきました。(11～12月分)ありがとうございました。
- ◆滝沢藤三郎様・『教科書』(江戸・明治・昭和期)78点・『スキー(レース用ウィッツ)』(昭和40年代)1セット・『スキー(アルペン用)』(昭和40年代)1セット
  - ◆望月武様・『めんこ』(昭和30年代)634枚・『ビー玉』(昭和30年代)310個
  - ◆藤本智祐様・『炬燵やぐら』1点
  - ◆光頭和子様・『国民服(上下)』1点



△炬燵やぐら

※ふるさと館では、当館で所蔵していない資料の寄贈を随時受け付けています。頂いた資料は、大切に保存・活用させていただきます。

### 手作りのしめ縄でお正月を迎えよう 好評のふるさと館体験教室「しめ縄作り」

ふるさと館では例年、郷土に伝わる年中行事の時期にあわせ、伝統技術や食文化などを学ぶ体験教室を開催しています。12月初めには、しめ縄作りを行いました。講師はふるさと館市民学芸員の徳竹豊治さんです。今年市内の3、5年生の小学生と保護者の方合わせて14名が参加しました。

まずは藁仕事の基本である縄の練習から始めました。子どもたちは先生の実演を見てすぐに習得し、あつという間に何本も縄をつくっていました。しめ縄作りは力の



いる作業ですが、先生に手伝ってもらいながらつばなしめ縄を完成させました。しめ縄作り教室は今年で5回目を迎えました。毎年参加してくる小学生も多く、楽しく好評の体験教室です。